

## 各会計の予算 ( )は前年度比

■国民健康保険特別会計	10億3950万6千円(+ 0.3%)
■老人保健特別会計	16億3820万3千円(+13.7%)
■水道事業会計 (支出)	6億958万7千円(+ 5.6%)
■ガス事業会計 (支出)	7億7398万2千円(- 0.2%)

### 老人保健拠出金が4千万円増

#### 国民健康保険

歳入歳出ともに10億3950万6千円で、前年度より334万1千円、0.3%の増です。大きな制度等の改訂はなく、前年度実績などを勘案して編成されました。事業としては、療養給付費をはじめ各種の給付を行うとともに、保健施設事業の長期実施計画を策定し、地域の実情に応じた事業の推進を図るほか、一般会計事業と連携をとり被保険者の健康づくり事業を推進します。

## 平成3年度 特別会計 事業会計 予算

平成3年度の特別会計・事業会計の予算をお知らせします。

歳入は、保険税4億4926万8千円、国庫支出金3億8171万8千円、療養給付費交付金9023万8千円、一般会計からの繰入金1685万2千円など。歳出は、保険給付費を6億5379万7千円に減額(前年度は7億584万8千円)しましたが、老人の増加に伴い老人保健拠出金が3億1114万8千円と前年度より4197万円の増となっています。

### 老人一人当たりの医療費が県下最高

#### 老人保健

歳入歳出とも16億3820万3千円です。歳入は、支払基金交付金11億4095万5千円、国庫支出金3億2502万2千円、県支出金8122万2千円、一般会計からの繰入金9100万2千円などです。歳出は、大部分が医療給付費で16億413万8千円、医療費支給費2025万9千円などです。

老人保健制度が発足して8年ですが、老人一人当たりの医療費が県下最高という状態で、一般会計や国民健康保険特別会計への負担が増えています。今後ますます老人が増加すると見込まれるので、国の医療費適正化推進事業を充実して、レセプトの点検整備指導や健康教育などに努力します。

### おいしい水の安定供給に赤水対策を

#### 水道事業

昨年8月の渇水期の、源水の水質悪化による赤水発生を教訓とし、安価でおいしい水を安定供給するため、施設の改善及び維持管理を基本とし、経営の合理化と健全化を図ります。

施設では、赤水対策で次亜塩素酸ソーダ注入機を導入します。給水戸数は10戸増の7278戸、年間総給水量は351万2942立方メートルを見込んでいます。水道料金その他の収益的収入は前年度比3.9%増の4億9818万円、同支出は4億1931万6千円。資本的収入は101万円でうち工事負担金100万円、同支出は1億9027万1千円のうち4089万2千円が企業債の償還に使われます。不足額の1億8926万1千円は損益勘定留保資金などで補てんします。

### 安全第一に 経営の合理化を

#### ガス事業

暖冬が恒常的になっている中、電力・石油など他エネルギーとの競合で厳しい運営が迫られています。安全を第一に、施設の改善などで保安サービスに努めるとともに、経営の合理化と健全化を図ることを考慮して予算編成を行いました。

供給戸数は10戸増の6883戸、年間供給量は767万3855立方メートルを見込み、ガス料金その他の収益的収入は前年度比27%増の6億8676万円、同支出は6億7059万8千円。資本的収入は3101万円でそのうち企業債が3000万円、工事負担金100万円、同支出は1億338万4千円でこのうち3656万8千円が企業債の償還に使われます。不足額の7237万4千円は損益勘定留保資金ほかで補てんします。施設では、老朽管の入れ替え、整圧器の改善、マイコンメーターの導入などを予定しています。

## 黒埼町の 今音

町史編さん室

### 金巻の演芸部 四

#### 好評だった新潟刑務所や新発田病院への慰問活動

新潟刑務所を慰問する「そよ風」は、当時新潟市西大畑にあった新潟刑務所へ慰問に行った。楽団誕生の恩人、金巻関念寺の住職・本田静庵師が、教師が保護司のような公職にあった関係からだった。

そうした中、刑務所側から、その年の三月から始まったのど自慢コンクールの影響か、歌の好きな囚人たちをステージで歌わせてほしい、と申し入れがあった。よろしいでしょう、と言うと、たちまち我先に二、三十人がステージの前に並び、みんなをびつくり

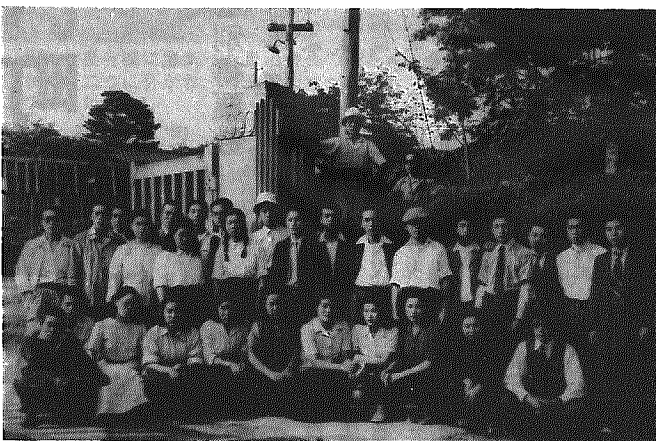
させた。歌わせたみたら商売人はだしの者も何人かいて、「そよ風」の歌手たちもよしうし(恥ずかしい)のようだったという。囚人たちが一番多く歌ったのは「誰か故郷を思わせる」だった。

この慰問を囚人たちからは心から喜び、刑務所の人からも非常に感謝され、当日は彼岸の中日だったので囚人たちと同じく赤飯をご馳走になったそうです。

国立新発田病院の慰問 同じ年の六月十六日には国立新発田病院の慰問に行った。これも静庵師の依頼によるもので、もちろん費用自弁の奉仕活動だった。

当日、午前七時ころ木場農協前に集り、農協から借りた大型トラックに乗って出発した。今と違って昔の新発田は遠かった。信濃川大橋も帝石橋もまだなく、万代橋を渡って沼垂へ入り、旧新発田街道の曲りくねった狭い砂利道を二時間近くかけて、ようやく新発田に着いた。

国立新発田病院は戦時中の陸軍病院で、戦後間もないところはまだまだ大勢の傷兵軍人が入院していた。



国立新発田病院へ慰問に行った楽団「そよ風」のメンバー。前列左から、大野是二、山際佐九一(木場)、荻野マセ(板井)、大野ヒサ、高井トシ、大野ムツ、小林ミキ、桜井フミ、桜井トク、大野マサ、高橋芳衛、二列目左から永井源二郎(木場)、金子正光、小川豊作、久保田タイ(板井)、安藤忠治、高橋美千代、二人とんで鈴木ヒデ、星野静恵、石附久平、桜井三、大野周助、高井梯次郎、今井利一、白井与八郎(小平方)、田辺伝平、鈴木忠市、永井昇平



昭和23年ごろの大野青春楽団(前回で紹介)。

楽団公演の場所は待合室に設けられた。開演すると、ここでも傷兵軍人や入院患者などの飛び入りがあったりして非常に好評で、病院側から感謝された。

木場の音楽グループと交流 金巻の楽団の中でも、特に音楽熱心な小川豊作、田辺伝平、今井利一の三人は、他部落の音楽好きな仲間とも交流した。木場でも笠原満夫、アコーデオンのうまい豊田清作、ギターの渡辺又吉、司会をさせたら抜群の豊田清治がいて、金巻のように楽団を作りたいと思ったが、残念ながら人員が揃わなかった。そんなことから金巻の小川らと交流が始まった。

新発田前駅を降りた金巻青年会長・前田松平以下楽団員二十余人は、迎えに来た大型トラックの荷台に乗り、刑務所へ向かった。ポディに「新潟刑務所」と大きな文字で書かれていたので、新潟の人々の目にげんに映ったらしく、じろじろ見られてきまりが悪かったという。

ステージは刑務所内の広い講堂にあり、静庵師のあいさつのもと、高橋芳衛の司会で盛大な楽団演奏が始まった。続いて歌手の前田松平、白井与八郎、高橋昇らが当時流行していた歌謡曲「異国の丘」や「湯の町エレジー」が港に見える丘」泣くな小鳩よ」などを、大野マサが「リンゴの歌」などを歌った。

練習は、家の人の理解もあり、笠原の家の一部屋を練習部屋として使った。

司会のうまい者もあり、七人揃えば当時のこと、けっこう楽団として通用したので、ときどき笠原の家で入場料をとって興行した。

そんな彼らの楽団に、黒鳥から踊り子の本間エミ(旧姓・石田)、古川ウメノ、女性歌手の江端アル(旧姓・森)男性歌手の保野正夫、小林田蔵らも協力、出演した。

金巻の楽団の活動期間は約八年。決して長い期間ではないが、敗戦後の人々が暗い気持ちで打ちひしがれていた時に、楽団の活動はどれだけ村や地域の人々に希望と活力を与えてくれたか図りしれない。執筆・宮田栄門 取材協力・田辺伝平、小川豊作、今井利一、笠原満夫(敬称略)